



能 「弱法師」盲目之舞 上野 雄三

狂言 「鬼瓦」 茂山七五三

能 「野守」 上野 朝彦

第八十六期令和七年度

第一回

上野松颯会

定期能楽会

令和七年三月二十日（木・祝）

午後一時始（正午開場）

◆会場 大槻能楽堂

大阪市中央区上町A-7（〇六-六七六一-八〇五五）

◆入場料 一般 五千円／学生 二千五百円

◆お問い合わせ・入場券取扱い

大槻能楽堂 〇六-六七六一-八〇五五

朝陽会館 〇六-六三三七-〇八四四

各出演能楽師



第一回 上野松颯会定期能楽会

令和七年三月二十日(木・祝) 午後一時始

仕舞

田村クセ 篠崎 珠樹
網之段 伊原 昇
須磨源氏 赤井きよ子

能

上野 雄三

弱法師

盲目之舞

福王 知登

間島田 洋海

山本 哲也
清水 皓祐

赤井 啓三

後見 田口 亮二
野村 昌司

地謡

伊原 昇
渡邊 瑞子
赤井きよ子
赤松 禎友

〈休憩 十五分〉

狂言

鬼瓦

茂山七五三

鈴木 実

後見 山下 守之

野守

上野 朝彦

喜多 雅人

守家 由訓
荒木 建作
赤井 要佑

間山下 守之

後見 野村 昌司
上野 朝義

地謡

篠崎 珠樹
伊原 昇
前田飛南子
田口 亮二

附祝言 終演予定十六時十五分頃

『弱法師 盲目之舞』

よるほし もらもくのまゝ
高安の左衛門尉通俊(ワキ)が人の讒言(ざんげん)を信じてわが子の俊徳を追い出したことを不憫(ごん)に思い、俊徳の二世安楽を願って難波の天王寺で施行を行ってゐる。その日は彼岸の中日、施行の満願の日である。そこに家を追われて盲目となった俊徳(シテ)が、弱法師と呼ばれる乞食のような姿でやってきて、施行を受ける。弱法師が天王寺の貴い由来を語り、難波一帯を極楽浄土のようにだと賛嘆するうち、通俊は弱法師がわが子と気づくが、素知らぬふうを装って西方浄土を拜むよう勧める。俊徳が西に向かうと、沈みゆく夕日に照らされた難波の海の風景がその心眼に見え、その奇跡に歓喜した弱法師は、行き来の人によつかつて転倒する。そこで通俊が声をかけると、弱法師は身を恥じて逃げるが、やがて親子は高安の里へと帰ってゆく。小書「盲目之舞」は途中で通常には無い舞が入る。

『野守』

のもり
大和国春日の里を訪れた山伏(ワキ)、そこへ現れた野守の老翁(前シテ)はこの野にある溜まり水が『野守の鏡』と呼ばれていることを教え、しかし真実の『野守の鏡』とは、この水ではなく鬼神のもつ明鏡のことだと明かす。この溜まり水が和歌の世界で『野守の鏡』と呼ばれるに至った故事を語る老翁。やがて、真実の鏡にも関心を示す山伏であったが、老翁は「鬼神の鏡は世にも恐ろしい物なので人には見せられない」と告げると、野中の塚に姿を消してしまふ【中入】山伏が真実の鏡を拝すべく一心に祈っていると、塚の中から鏡をたずさえた鬼神(後シテ)が出現した。鬼神は、大宇宙のすみずみまでを明鏡に映し出し、この世界の諸相を見せて、奈落の底に入っていくのであつた。

◆『弱法師・野守』の演目解説講座

〈定期能をより楽しむために〉

『弱法師盲目之舞』 2月28日(金)

『野守』 3月7日(金)

昼の部 午後1時〜午後2時半
夜の部 午後6時〜午後7時半

○料金 2000円

○会場 朝陽会館 大阪市北区天神橋一の一七の八

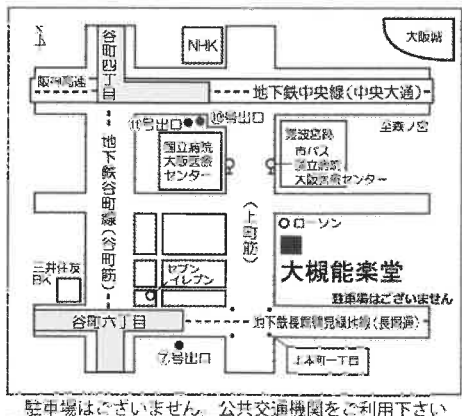
○お問い合わせ先 朝陽会館 06(63357)0844

info@choyokaikan.com

【第2回上野松颯会定期能楽会】

令和7年7月5日(土) 午後1時始

能 夕 顔山ノ端之出 上野 朝義
能 狂言 棒 縛 茂山忠三郎
能 鉄 輪 上野 雄介



○大阪メトロ谷町線・中央線「谷町四丁目」下車、
⑩番出口南へ約300mまたは谷町線・鶴見緑地線
「谷町六丁目」下車⑦番出口北へ360m
○市バス「国立病院大阪医療センター」下車南へす
ぐ ※大阪駅前から62系統「住吉車庫前」行乗車

※本公演における許可のない写真撮影・テープ録音・携帯電話等にての撮影・録画は固くお断り致します。
・発熱や咳など、風邪の症状がみられる場合はご来場をお控えいただきますようお願い致します。